矢板の冬の風物詩・イルミネーション点灯中!

11月26日(金)、矢板駅の西口広場前でイルミネーショ ンの点灯が始まりました。これは、市民有志でつくる「矢 板まちづくり研究所」が毎年行っているもので、すみれ 幼稚園の園児によるハンドベル演奏も行われました。

また、12月4日(土)には、片岡駅前でも点灯が始ま りました。こちらは、矢板市片岡地区コミュニティ推進 協議会を中心に行っているもので、今回のイルミネーショ ンのテーマである「アヒル」の人形が数多く飾られました。 両駅とも利用客など多くの人が足を止め、その幻想的 な光景を楽しんでいました。















矢板を知る、お試し体験

市内で、総務省の「おためし地域おこし協力隊事業」 を活用した「ローカルインターン」が県内で初めて行わ れました。これは、地域おこし協力隊の裾野を広げるため、 隊員になる前に現地の雰囲気や生活を体感できる場を提 供するものです。参加者 10 人は、古民家の利活用などを 企画立案する「地域づくりコース」と林業現場などを体 験する「林業担い手コース」に分かれて活動を行いました。 参加者は「3日間の体験で矢板ならではの魅力を発見で きた。矢板で隊員として活動してみたい」と話していました。



蛇口握らず肘で開閉へ

片岡小学校で、接触機会の削減による新型コロナの感染 予防を目的に、矢板ロータリークラブ (RC)や同校 PTA のメ ンバー約20人が参加し、水道の蛇口を指で握る回転式の ハンドルから、肘でも開閉できるレバー式に交換する作業を 行いました。レバー式のハンドル 100 個は矢板 RC の寄附に よるもので、参加者は一つひとつ丁寧に交換していきました。 矢板 RC 千野根会長は「子どもたちには黙食ではなく、

安心して楽しく給食を食べられる日常を取り戻してほし い。その一助になればうれしい」と話していました。



342 洪水に備え避難訓練

川崎小学校で、矢板土木事務所と市の合同で豪雨によ る洪水を想定した避難訓練が行われました。これは、一 級河川宮川の浸水想定エリア内に位置する当校をモデル に、全児童と教職員を対象とした住民参加型の避難訓練で、 校舎3階へ逃げる垂直避難の体験や、オンラインで寺山 ダムの機能や放流警報時のサイレン音について学びました。 参加した児童は「洪水に備え、日ごろから天気予報に 注意したい。帰ったらおうちの人に、訓練で学んだこと

教えてあげたい」と話していました。

来年の国体開催に向けて

長峰公園で、「いちご一会とちぎ国体デモンストレーショ ンスポーツ『オリエンテーリング』開催1年前記念大会」 が行われました。これは、来年9月に、本市で開催され る当競技の周知と国体の機運醸成を目的に、本大会のリ ハーサルを兼ねて行われたものです。市内外からの参加 者約30人は、頭と体を使って園内各地に設置された関門 を見つけ出し、ゴールを目指してタイムを競いました。

参加者は「開放的で気持ちのいいコースだった。来年 の本大会にもぜひ出場してみたい」と話していました。

【オリエンテーリングとは】 地図とコンパスを使い、 フィールド内に置かれた関 門を指示された順番で通過 ゴールまでにかかった 時間の早さを競うスポー



※デモンストレーションス ポーツは、競い合う正式 競技とは別に、県民なら 子どもからお年寄りまで 幅広い年齢層の方が気軽 に参加できるスポーツイ ベントです。

市民の健活へ連携開始

市保健福祉センターで、市民の健康増進などを目的に9 月に本市と「包括連携協定」を締結した明治安田生命保 険相互会社との初共催となる「まちなか保健室」が行わ れました。今回は同社の協力により、手のひらをセンサー に当てて野菜摂取状況を測定するベジチェックと、指先に 専用機器を装着して測る血管年齢測定が追加されました。

参加者は「手軽に測定できるのでいつも参加している。 今回は、追加で新たな測定をしてもらえてありがたい。 これからも健康管理に気をつけたい」と話していました。

【まちなか保健室とは】

「気軽に、手軽に、健康 相談」をコンセプトに、保 健師や栄養士が、健康相談 や体組成測定により健康状 態のチェックを行います。



▲ベジチェックと血管年齢 測定の様子 ▲体組成測定の様子

みんなで知ろう障がいのこと

城の湯温泉センターで、12月9日(木)までの7日間、 市内障害福祉サービス事業所を利用する方たちの日常生活 の様子を紹介したパネル展が開催されました。これは、障 がいや障がい者に対する関心や理解促進を重点的に行う 「障害者週間」に合わせて行われたものです。また、この ほか就労継続支援施設の利用者が、心を込めて手作りし たホコリ取りやマグネットなどのグッズが配布されました。

見学に来た方は「明るく楽しそうな様子が伝わってき た。手作りグッズもとても可愛い」と話していました。



令和4年1月号 令和4年1月号

まちの話題 **Town Topics**

「さらなる高みを目指して」DMAT と初の合同訓練

早川町のシャープ(株)敷地内で、国際医療福祉大学塩 谷病院の災害派遣医療チーム(DMAT)、矢板消防署の協 力のもと、市消防団が「大規模災害を想定した合同訓練」 を実施しました。この訓練では、大規模地震により建物火 災が発生、新型コロナ感染者を含む負傷者が発生したと想 定。中継送水、トリアージを含む負傷者の救助・搬送・救護、 陰圧テントの設置・感染者の収容など、複合的な災害に対 応するための訓練を各関係機関が連携し行いました。

大貫消防団長は「訓練の経験を活かし、実際の災害現場で スムーズに活動できるよう技術を磨きたい」と話されました。



















選手力走!襷、想いをつなぐ

塩谷地区の2市2町を9区間で駆け抜ける「第64回塩 谷地区駅伝競走大会」が行われ、本市から2チームが出 場し、A チームが準優勝、B チームが 7 位の成績を収めま した。新型コロナの影響で2年ぶりの開催となった今大会、 沿道の声援を背に、選手たちは懸命に襷をつなぎました。

第1区を任された兼子 咲楽さん・長久保 心愛さんは 「まずは自分たちがいい走りをして、チームに流れを呼 び込みたい。自分の力を信じる」と、スタート前に意気 込みを話してくれました。



年の瀬に安全・安心を

市内で、矢板地区防犯協会による「防火・防犯診断」 が実施されました。この取り組みは、火災の発生が多い 季節を迎え、特に年末は犯罪が増加する傾向にあるため、 市民の方が安全・安心な年の瀬を迎えられるよう、市内 各所の安全確認や市民の方への意識啓発を、市・矢板警 察署・市消防団が連携し行っているものです。

当日は、市役所で出発式を行った後、市内各所で車や 自転車の施錠確認、市民の方への声掛けなどのパトロー ルを行いました。



「ジングランジングラック Pともたちのために

市役所で、寄附贈呈式が行われ木幡在住で会社員の森 純一様・珠江様ご夫妻から、寄附金50万円の目録が手 渡されました。これは、少しでも市に協力できることは ないかと考えていたご夫妻から、来春に長女が小学校に 入学するのを機に、多くの子どもたちが学校で利用でき る電子書籍購入のために使ってほしいとご寄附いただい たものです。

森様は「教育は宝。これからも地域の子どもたちのた めにできることをしていきたい」と話されました。

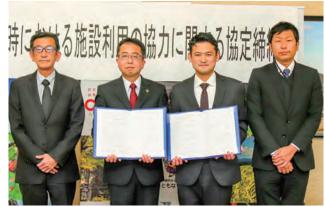


▲(右から)森珠江さん、森純一さん、齋藤市長

災害時の車両避難場所に

市役所で、市と(株)ダイナムとの「災害時等におけ る施設利用の協力に関する協定」が締結されました。本 協定は、災害発生時に店舗駐車場を自家用車による車中 泊者の避難場所として提供いただくほか、避難者に対す る施設内のトイレや水道施設の開放、ダイナム様の判断 により食料や飲料および備品などを提供いただける内容 となっています。

齋藤市長は「避難者の安全確保につながるこのような 支援は心強く、大変ありがたい」と話しました。



▲(右から)(株)ダイナム 石山経営企画部地域共生担当、久保矢板店店長 齋藤市長、横塚副市長

自分で育て、自分で打つ

市内で、蕎友蕎楽の会主催の「令和3年度そばオーナー 制度」が開催されました。この制度は、農業体験に興味を 持つ方を対象に、主催の皆さんが講師となって、そばの種 まきから収穫、そば打ち体験までを全4回の日程で指導し てくれるもので、今年で15年目を迎えます。この日は、市 内外から参加した25人が協力し合いながらそば打ち体験 を行い、終了後には講師の手打ちそばが振る舞われました。

毎年参加している方は「そば打ちが上達し、家族がよく褒 めてくれます。大晦日も家でつくります」と話していました。



12/12 高校生の想いを乗せて

長峰公園で、市内の高校生たちが「自分たちがワクワ クするような"まち"」を実現しようと企画したアウト ドア体験イベント「Outdoor Fes in Nagamine Park」が 行われました。当日は、運営スタッフとして高校生30 人以上がイベントに携わり、訪れた多くの家族連れと共 にイベントを楽しみました。

代表の萩原さんは「企画したイベントで多くの方に楽しん でもらえてうれしい。今後も、高校生や市民の方が楽しんで 参加できるイベントを企画していきたい」と話してくれました。

峰公園を遊びつくす」とい うテーマのもと、気球の搭 乗体験や公園の自然を生か したスラックライン、ツリー クライミングなどのアウト ドア体験が行われました。



会場内から大きな歓声 が上がりました。 (このイベントは、県の「と

ちぎ高校生地域定着促 進モデル事業」を活用し 実施したものです。

10 令和 4 年 1 月号